



## VM26キャブレターキット 取扱説明書

商品番号 : 03-05-3313 (キャブレターキット)  
: 03-02-059 (マニホールドセット)  
適応車種 : TT R50E (スーパーヘッド+R装着車専用)

### ご使用前に必ずお読み下さい

この度は、タケガワ“TT R50E VM26キャブレターキット”をお買い上げ頂きまして有難うございます。ご使用になられる前にこの説明書をよくお読みいただき内容を把握下さいませお願い致します。

取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一、お気付きの点がございましたらお買い求めいただいた販売店にご相談下さい。

当製品は、TT R50E スーパーヘッド+R専用となっております。STD.エンジン及び他の車種には使用出来ませんのでご注意下さい。雨天時の走行は出来ません。ご注意下さい。

キャブレターは、使用部品や自然現象などによりセッティングが変化します。付属のジェットを基準とし、個々に合ったセッティングを行って下さい。

この製品の取り付けにはフレームのステーの切り取り加工が必要です。

この製品を取り付けるには、ハンドルの変更が必要です。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

**注意** この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・取り付け作業は必ずエンジン冷間時(35以下)に行なって下さい。エンジンやマフラーが冷えていない状態で作業を行なった場合、火傷の原因となります。
- ・ボルト、ナット類は、必ずトルクレンチを使用し指定トルクで確実に締め付けて下さい。
- ・キャブレターへのホース取り付けは、必ずホースクリップを用いて確実に接続して下さい。
- ・エンジン回転中は、キャブレター吸気管内を不用意に覗き込まないで下さい。吹き返しによるガソリンやバックファイヤーにより火炎が噴出する場合があります。
- ・キャブレターは天候・気温・気圧の自然現象や使用部品の組み合わせ、個体差等によりセッティングを変更する必要があります。個々のエンジンに合ったセッティングを行なって下さい。
- ・走行前には必ず各部の取り付け状態やガソリン漏れを点検して下さい。又、走行中に異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ異常箇所の点検を行なって下さい。

**警告** この表示を無視した取扱をすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・技術、知識等が無い方は、作業を行わないで下さい。  
(部品破損等の原因により、転倒、事故につながる恐れがあります。)
- ・走行前には、必ず各部の取り付け状態を点検し、緩み、ガソリンの漏れ等がないかを確認して下さい。又、走行中異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ異常箇所の点検を行って下さい。  
(そのまま、走行すると事故につながる恐れがあります。)
- ・エンジンを始動する場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンをかけないで下さい。  
(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・取り付け作業は、車両を安定させた状態で行って下さい。  
(車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行って下さい。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

~ 商 品 内 容 ~



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	キャブレターASSY. (VM26)	1	03 03 0321	1
2	インレットパイプ	1	17111 5HN T00	1
3	インシュレーター	1	16212 165 T00	1
4	インシュレーターバンド	1	00 00 0050	1
5	インレットパイプガスケット	1	00 03 0009	3
6	ソケットキャップスクリュー 6×15	2	00 00 0042	10
7	ソケットキャップスクリュー 6×20	2	00 00 0043	10
8	ハイフローフィルター	1	03 01 1064	1
9	スロットルバルブスプリング	1	16022 MVM T10	1
10	スロットルCOMP.	1	_____	1
11	スロットルケーブル 700mm	1	17910 GEF T00	1
12	スロットルグリップラバーセット	1	09 02 001	1
13	パイロットジェット #17.5	1	00 03 0154	1
14	メインジェット #180	1	00 03 0076	1
15	メインジェット #185	1	00 03 0077	1
16	六角棒レンチ 4mm	1	_____	1
17	六角棒レンチ 5mm	1	_____	1

印の部品はマニホールドセットの内容を示しています。

リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。あらかじめご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませ。様お願い致します。

出荷時キャブレター状態

メインジェット	#190
パイロットジェット	#22.5
ジェットニードル	5E75
クリップポジション	3段目
スロットルバルブ	#1.5
エアースクリューオープニング	1回転±1/4

[セッティングパーツ]

メインジェット

#100、#105、#110、#115、#120、#125、#130、#135、#140、#145、#150、#155、#160、#165、#170、#175、#180、#185、#190、#195、#200、#210、#220、#230、#240、#250、#260、

スロージェット

#10、#12.5、#15、#17.5、#20、#22.5、#25、#27.5、#30

## ～取 り 付 け 要 領～

### ノーマル部品の取り外し

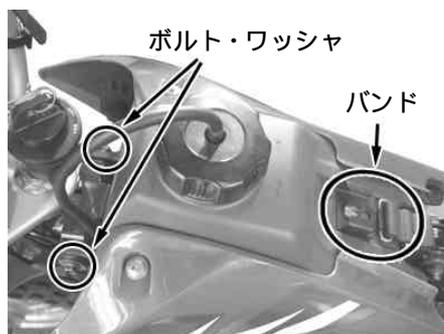
#### 1. 外装部品の取り外し

フューエルコックをOFFにし、フューエルホースをコックから抜き取る。

シート裏側のボルト2本を取り外し、シートを取り外す。



フューエルタンクとフレームをとめている左右のボルト/ワッシャと後部のバンドを取り外し、フューエルタンクを取り外す。



#### 2. キャブレターの取り外し

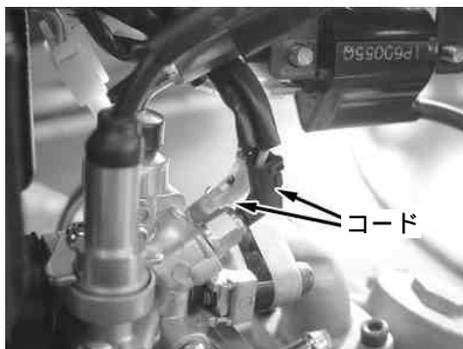
エンジンマウントボルト/ナット1組、ボルト2本を取り外し、エンジンブラケットを取り外す。



エアクリーナーボックスステー部のボルトを取り外し、ジョイント部のバンドを緩めエアクリーナーボックスを取り外す。



キャブレターからヒーターリードコードの接続を外し、ビニールテープ等を使用し絶縁しておく。



チョークレバーをフレームから取り外す。



シリンダーヘッドとインレットパイプをとめているボルト2本を取り外す。



キャブレターとアクセルワイヤーを車両より取り外します。

### 車体側の取り付け準備

フレームに付いているステーがエアクリーナーに干渉する為、切除します。



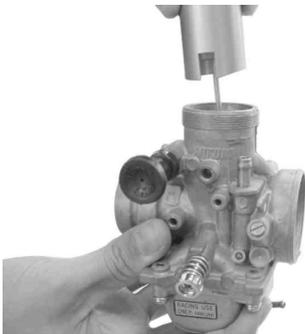
コードがキャブレターに干渉するので、イグニッションコイルを反対側に取り付けます。



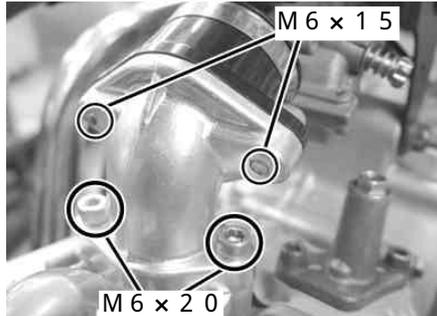
以降の作業は、当社製シリンダーヘッドが車両に搭載されている、ハンドルパイプ径が 22.2 の物に交換されている事が前提となります。

## キャブレターの取り付け

インシュレーターをインレットパイプにソケットキャップスクリュー締め付ける。  
**規定トルク：10N・m(1.0kgf・m)**  
インシュレーターにキャブレターを差し込み、バンドを仮締めしておく。  
キャブレターにエアフィルターを取り付け、バンドを締め固定する。  
(エアクリーナーがフレームに干渉する場合があるので、フレームに保護テープ等を貼っておく)  
キットのキャブレターのトップカバーを外して、スプリング、スロットルバルブを抜き取ります。スロットルケーブルのインナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを締めながらスロットルバルブに取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャブレターに取り付けます。  
必ず付属のスロットルバルブスプリングに交換する。



インレットパイプとシリンダーヘッドの間にガスケットをはさみ、印の所にソケットキャップスクリューで締め付ける。  
**規定トルク：10N・m(1.0kgf・m)**



エアフィルターを取り付け、バンドを締め付けて固定する。  
スロットルグリッブ部で5mm程度の遊びが出来るようにスロットルケーブルのアジャスターを調整します。  
スロットルを数回スナップさせ引っかかりやスロットルバルブの全開状態を確認します。  
ステアリングを左右いっぱいに切った状態でもスロットルに遊びがあることを確認して下さい。  
クランクケースからのブローバイガスの処理は各自で行う。

## 外装部品の取り付け

エンジンマウントボルト/ナット1組、ボルト2本でエンジンブラケットを取り付ける。  
**規定トルク = 30N・m(3.0kgf・m)**  
フューエルタンクの左右をボルトで、後部をバンドでフレームに取り付ける。  
**規定トルク = 7N・m(0.7kgf・m)**  
シートをフレームにボルト2本で取り付ける。  
**規定トルク = 7N・m(0.7kgf・m)**  
フューエルホースをコックに取り付ける。

## エンジン始動

フューエルコックの方向、フューエルチューブの長さを調整し、フューエルコック、キャブレターに差し込みチューブクリップを取り付けます。フューエルコックを開き各部からのガソリン漏れの有無を確認します。(コックを開いたまま長時間放置しないで下さい。)  
チョークレバーを引きエンジンを始動させ各部からの吸気漏れの有無を確認します。チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転を行いチョークレバーを完全に戻します。エンジン暖気後アイドル回転しない場合や、アイドル回転数が高い場合は、スロットルストップスクリューで調整します。  
安全な場所で十分注意し、個々の車体に合ったセッティングを行って下さい。

## エアクリーナーメンテナンス要領

キットに含まれるフィルターがハイフローフィルターの場合は、容易にメンテナンスをすることが出来ます。エレメントが汚れた場合は、下記手順によりメンテナンスを行って下さい。  
(市販のフィルタークリーナーやフィルターオイルといったケミカル類は使用しないで下さい。使用された場合、エレメントが劣化する可能性があります。)

1. 車両より取り外し、エレメント表面に付いた大きな塵等を取り除きます。
2. 市販の中性洗剤を薄めた洗浄液を作り、フィルターを洗浄液に浸し、エレメントを洗浄します。  
(この時エレメントを硬いブラシでこすったり、強くエレメントを揉んだりしないで下さい。エレメントが痛みます。)
3. 水道水等の流水で、エレメントの内側から水を注ぎ込み、エレメントの洗浄液をよくすすぎます。
4. 洗浄液をすすぎ終わったら、エレメントを乾かします。

ウエス等でエレメントの水気を押さえるように拭き取り、風通しの良い日陰で自然乾燥させて下さい。  
もし圧縮空気をを用いる場合は、内側から弱い圧力で水気を吹き飛ばして下さい。

## 警 告

本製品付属のMIKUNI VM26キャブレターについて、出荷時VM26キャブレターにはオンロード用標準スロットルバルブスプリングが組み込まれています。

スロットルワイヤー接続の際、付属のオフロード用強化スロットルバルブスプリングに必ず組み替えて下さい。

強化スロットルバルブスプリングは、スロットルやスロットルワイヤー、スロットルバルブ等への泥や砂の付着によるスロットルの閉鎖不良を緩和する為の部品です。

ただし、汚れによりスロットルの戻りが悪くなる事を完全に防ぐ事は出来ませんので必ず走行前に各部を点検し、走行中に異変を感じたらすぐに停車して下さい。

**SPECIAL PARTS TAKEGAWA**

## キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
<ul style="list-style-type: none"> <li>・爆発音が重い感じで断続する。</li> <li>・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。</li> <li>・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。</li> <li>・クリーナーを外すと調子が良くなる。</li> <li>・排気ガスが濃い。(黒い)</li> <li>・プラグが黒くくすぶる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンがオーバーヒート気味になる。</li> <li>・チョークを作動すると、調子が良くなる。</li> <li>・加速が悪い。(息付きをおこす)</li> <li>・回転変動があり、力がない。</li> <li>・プラグが白く焼ける。</li> </ul>

キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

### ジェットニードル (スロットル開度 1 / 4 3 / 4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がり重く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目へ下がるにつれ混合気は濃くなります。



### メインジェット (スロットル開度 3 / 4 4 / 4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

### パイロットジェット (調整前にもまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量 3 .0 回転以上の場合、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

### エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す 混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す 混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5回転)に合わせ、左右に1/4 1/2回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

### 気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

株式会社 **SPECIAL PARTS 武川** 〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号  
 TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>  
 お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857